

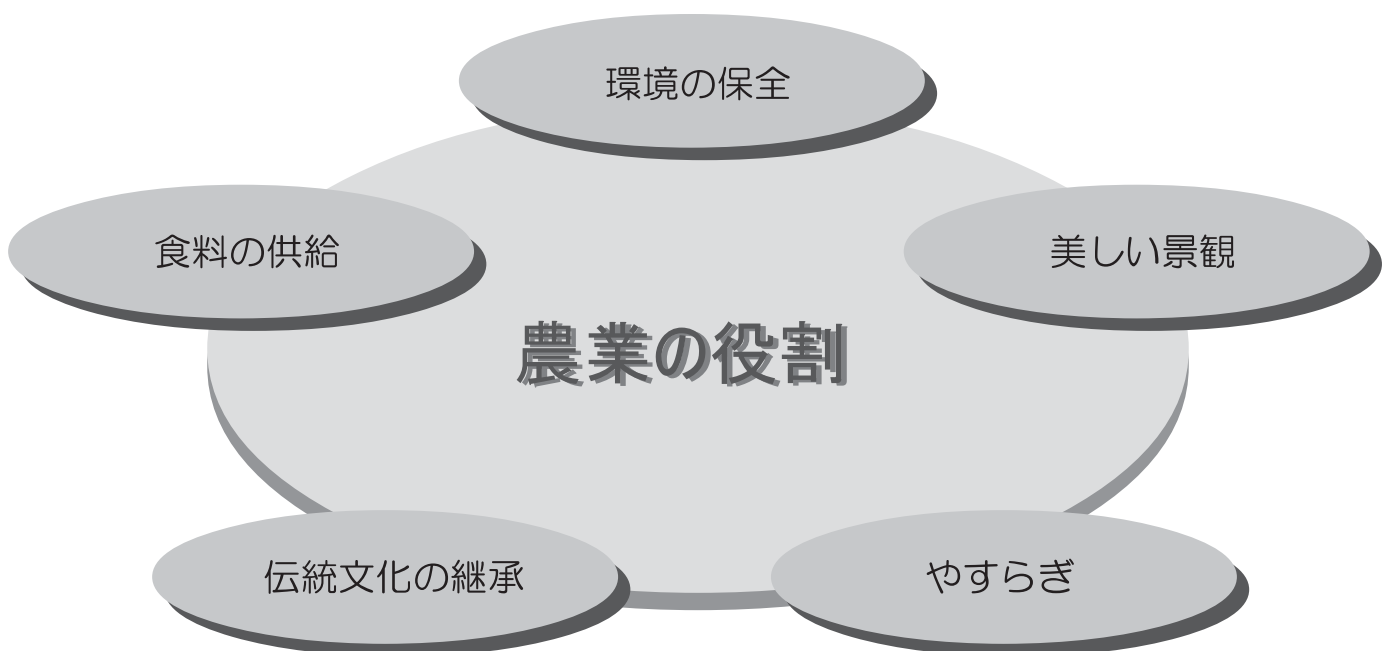
2. 農業の役割、特殊性（地域の中での農業生産）—

農業の役割

農業・農村は、わたしたちの生活に欠くことのできない食料を供給し、国土・環境の保全を通じて経済的外部効果、公益的機能、文化的役割、社会的意義など多種多様な機能や役割を果たしています。

農村には多様な生物が生息し、地域固有の農村景観や、歴史と伝統に根差した地域の文化が継承され、緑と潤いに満ちた生活・余暇空間を提供しています。

そして、その価値を、特に中山間地域では、中山間地域等直接支払制度（★1）を活用して保全しようとする取り組みも行われています。



★1：中山間地域等直接支払制度
農業者等が集落協定などを締結し、それに基づき農業生産活動等を継続した場合に、平地との生産条件の格差を補てんする制度。

農業の役割

食料の供給地

農業・農村は私達が生きていく上で欠かせない食料を供給しています。新鮮で安全な食べ物を供給することが農業の重要な役割です。

しかし、日本は食料の多くを輸入し、食料自給率は供給熱量ベースで40%と主要先進国の中で最低の水準となっています（ 2 ）。

経済的外部効果

農業は、直接的な農業生産だけでなく農業関連産業の市場形成に大きく貢献しています。また、国内の農業産出額は平成14年で8.9兆円（農林水産省「全国推計統計表」による）ですが、小売業・飲食業等市場規模の大きな他産業と密接なつながりがあります。

公益的機能

水源かん養機能

かん漑期に貯留される水の一部は地下深くに浸透することから、水源かん養に寄与します。特に水田は、貯水能力においても非常に大きな容量を持っており、その貯水量はダム機能にも匹敵し、重要な役割を果たしていることとなります。

大気浄化機能

農作物は、森林と同じく炭酸ガスを吸収し酸素を供給する植物として重要な役割を果たしています。

防災機能

水田は、大雨時に土砂が下流域に流れ出すことを防ぐ機能や、雨を一時的にためてこれを徐々に排水することで、いわばダムの役割を果たす機能を持っています。

また、水田に限らず農地に作物を栽培すれば、雨水などの流れをゆるめて、土砂の流出や侵食を抑え、土砂崩れを防ぎます。

2 世界の自給率 2001年現在の諸外国の自給率を示すと次のようになります。

国名 加リーベース自給率（%）

フランス	122
アメリカ	121
ドイツ	99
イギリス	61
スイス	55
韓国	49
日本	40

出所：農林水産省資料より作成。

文化的機能

祭りなどの年中行事や民謡、料理といった農村が誇る伝統文化は、農耕や農作物と密接な関係があり、農業・農村の維持はそれらを継承することにつながります。また、棚田など景観そのものが文化財と認定されている事例もあります。

社会的意義

農村は、近年では都市との交流が盛んになり、グリーン・ツーリズムなど農業や農村の生活・文化等の実体験を行う良好な余暇活動の場となっています。地域振興にも農業・農村は中心的な役割を果たしています。

人々は、緑豊かな自然にふれるとやすらぎを感じ、疲れが回復するような気分になります。それは自然の持つ「保健休養機能」と呼ばれる機能なのです。

自然循環機能

生物は、太陽エネルギーや水・空気等を取り込んで、自然の循環過程の中で自らを再生します。農業生産活動は土・水・緑といった自然環境を構成する資源を形成・保全すると同時に、こうした資源を持続的に循環利用することを可能にしています。

具体的には、田畑に棲むたくさんの微生物が有機質廃棄物(生ゴミ等)を分解し肥料として還元してくれます。また、水田は水分の蒸発により周囲の気温を低下させ、特に夏期においては周辺地域の気候を緩和させます。

農業の特殊性

農業は地域社会とのつながりや自然の影響など、周辺環境とのかかわりが他の産業にくらべてより強いといえるでしょう。農業へ参入する前に、それらの特徴を十分理解しておく必要があります。

生産と地域社会が密接している農業

農村環境や農業生産の基盤維持には地域全体の共同作業が必要な場合があります。例えば道路・水路維持管理などです。

農業は自然の力を利用した生産を行います。そのため直接自然の恵みを受けやすい屋外で生産することが多く、周囲へ大きな影響を及ぼすこともありますので十分留意する必要があります。

よって、参入に際しては収益のみに目を向けるのではなく、地域との十分な調整を図ることも必要です。

気象に左右される農業

露地栽培を中心とする農業経営は、気象など自然条件の影響を大きく受けます。野菜など多くの作目は栽培できる時期が決まっています。多くの生産者はなるべく一年を通して、作業量が一定になるように作付計画等を工夫しますが、気象が農業に影響を与えるのは宿命です。

このことは経営を難しくする要因でもあります。作業量や収入を得る時期が安定していないということは、従業員の生活が不安定となる可能性が高いからです。また、季節従業員の雇用の確保も課題となります。

そのため、季節要因や災害などによる不安定要素を避け、いかに経営を安定させるかという、工夫が大切になります。

